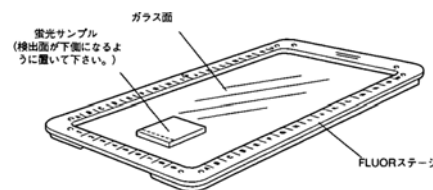
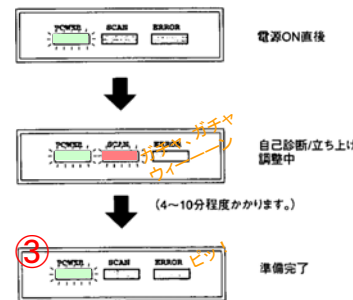
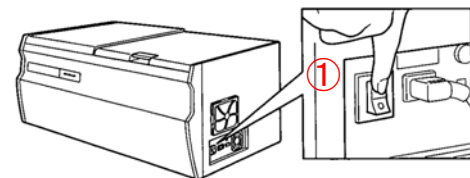
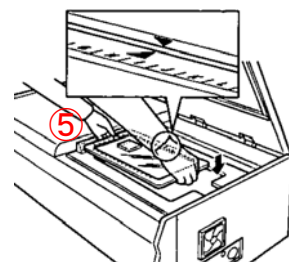


FLA-3000での画像の取り込み方法

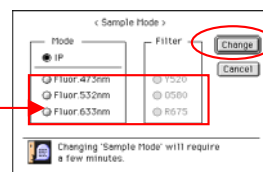
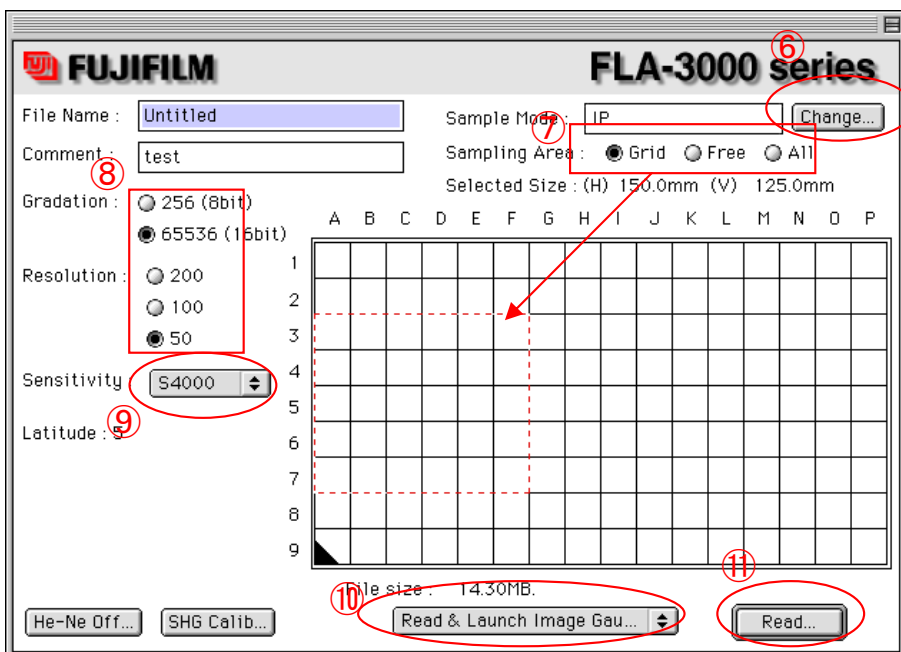
1. FLA-3000の電源(右側)を入れる。
2. Macの電源を入れる。
3. 装置前面のPOWERランプのみが点灯していることを確認。
4. デスクトップの「Image Reader」を起動する。
5. FLA FLUOR STAGEを用意し、サンプルをのせ、ステージセット部に△を合わせるようにセットする。
6. Sample ModeのChangeをクリックし、使用している蛍光色素にあったLaser波長(Fluor xxx nm)とフィルターを選択し、Changeをクリック。
(変更後、キャリブレーションのため少し時間がかかります)
7. 実物のステージを見ながらSampling Areaを指定する。
Allは全面、Gridはマス単位、Freeは自由にスキャン範囲を作れます。
(範囲を絞るとファイル容量を節約できます)
8. Gradation(濃度階調)、Resolution(画素サイズ、小さいほど細かい)を選択。
(階調を大きく、画素を小さくするとファイル容量が大きくなります。)
9. Sensitivityで感度を設定。F1が感度が一番低く、数字が大きくなると10倍ずつ感度が上がります。
10. 下部の項目でRead & Launch Image Gaugeを選択。
11. Readをクリックする。ファイルの保存場所を聞いてくるので任意の場所とファイル名を付ける。【生データ】
(前回のキャリブレーションから日数が経っている場合、SHGキャリブレーションを行うようにワーニングが出るのでSTARTをクリックし、キャリブレーションを行う。)
12. 取り込みが完了すると、自動でImage Gaugeが起動するので、必要な部分を白点線で囲み、OKをクリックする。
(Rotate/Flipで像の回転ができます)
13. File – Export File – TIFF – Window と選び、任意の場所にファイルを保存する。【画像データ】



使用前にFluor Stageを乾拭きし、埃を取ってください。
使用後は無蛍光中性洗剤で洗浄し、水洗、乾拭きをしてください。



他のソフトで画像を使いたい場合はTIFFファイルを使ってください。
(取り込み用PCにはTIFFが扱えるソフトがないのでTIFFは開けません)
解析を行いたい場合は、生データを使ってImage Gaugeで解析します。



励起波長	受光側フィルタ	備考	適する色素の例
473nm	Y520	SHG (473nm) で励起し、520nm以上の蛍光を抽出する	SYBR Green I, II, SYPRO Orange, AttoPhos, FITC, Cy 2, Fluor-X, FAM など
473nm	O580	SHG (473nm) で励起し、580nm以上の蛍光を抽出する	EiBr, AttoPhos, Acridine Orange など
633nm	R675	He-Ne (633nm) で励起し、675nm以上の蛍光を抽出する	Cy 5, DDAO-phosphate など
473nm	R675	SHG (473nm) で励起し、675nm以上の蛍光を抽出する	Alpha Red など
532nm	O580	SHG (532nm) で励起し、580nm以上の蛍光を抽出する	Cy 3, RITC, EiBr, TAMRA, SYPRO Red など
532nm	R675	SHG (532nm) で励起し、675nm以上の蛍光を抽出する	Red 670 など

